

地域に根差した高度な教育・研究成果を世界へ発信

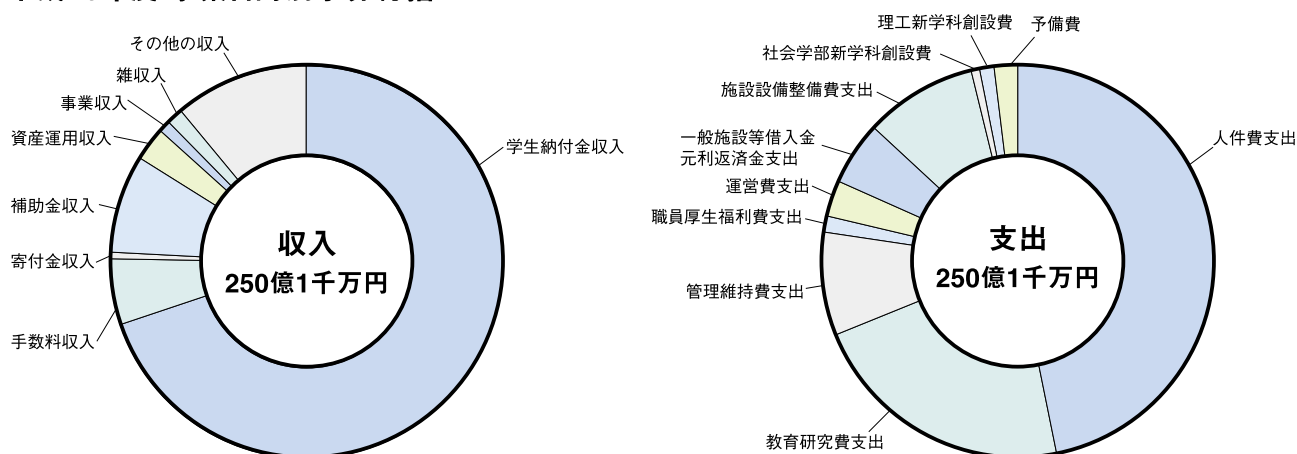
少子高齢化、国立大学の独立行政法人化など、大学を取り巻く環境が大きく変革する中で、本学は平成16年度も第4次長期計画を着実に推進し、社会からの要請に応えることのできる教育・研究の充実を図るとともに、安定的かつ健全な財政基盤の確立・維持を目指しています。

平成16年度予算で収入においては、学費（学生納付金収入）が175億円と収入の約70%を占めます。その学費について現行の額を踏襲しますが、①社会人入試等で入学した大学院生が入学時に「通常学費」と「単位制学費」を選択できるようにする、②再入学学生の入学金を免除する、などの改訂を行ないました。

支出については、教育・研究の充実、メディア機器や施設設備の充実など、さまざまな事業を新たに予算化しつつ、既存事業においても各事業が目的を十分に達成でき、かつ有効に予算が執行されるように配慮しました。

みなさんの貴重な学費を中心とした大学財政がどのように展開しているかをご覧ください。

平成16年度 事業目的別予算総括



平成16年度 事業目的別予算書総括表

(単位:百万円)

収入の部		支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
学生納付金収入	17,562	人件費支出	11,604
手数料収入	1,307	教育研究費支出	6,125
寄付金収入	134	管理維持費支出	1,567
補助金収入	1,999	職員厚生福利費支出	307
資産運用収入	525	運営費支出	842
事業収入	245	一般施設等借入金元利返済金支出	1,386
雑収入	214	施設設備整備費支出	2,475
その他の収入	3,009	社会学部新学科創設費	12
前年度繰越収支差額	20	理工新学科創設費	259
		予備費	400
		次年度繰越収支差額	38
収入の部合計	25,015	支出の部合計	25,015

予算総額＝250億円

平成16年度事業目的別予算主要事業の概要

・ 共生(ともいき) ・

■教職員人件費

116億4百万円

教育・研究等を遂行するため大学は、教職員をはじめとする多くの人材によって成り立っています。専任教員411名、特任教員69名、専任職員250名、嘱託事務職員121名を予算人員としています。人件費には、この他に客員教授や非常勤講師、ティーチングアシスタントや学生チューターにかかる経費、法律に基づき大学が負担するべき保険料などの所定福利費が含まれています。

■オープン・リサーチ・センター(ORC)研究費

1億3千5百万円

本学では、仏教生命観に基づく人間科学の総合研究を行なう『人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター』と、地域における公共政策と人的資源の開発システムをテーマに地域を支える幅広い人材の育成を目指す『地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター』を設置しています。この2つのプロジェクトに加え、平成16年度より「里山」についての総合的な研究から、「里山」を軸とした地域社会の共生モデルを提案し「里山学・地域共生学」の構築を目指す『里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター』が新たに文部科学省ORC整備事業の選定をうけました。

これら3つのプロジェクトを、ORC整備事業の趣旨に添った学外の幅広い人材を受け入れ、研究成果等を幅広く公開するなどオープンな体制下で推進していきます。

■学生交流会館運営費

5百万円

「やりたいことを見つけられ、それを行なえる場所」を基本コンセプトに学生の日々の活動をサポートするため、今年4月、瀬田学舎に学生交流会館が完成しました。この学生交流会館を管理・運営していくための予算です。

■顕真館建立20周年記念事業費

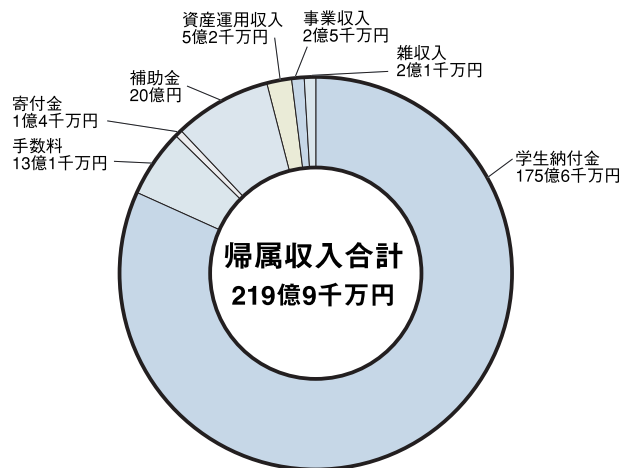
1千万円

1984年に完成した顕真館の建立20周年を記念し、記念講演や二十周年記念誌の発刊などの事業実施を予定しています。

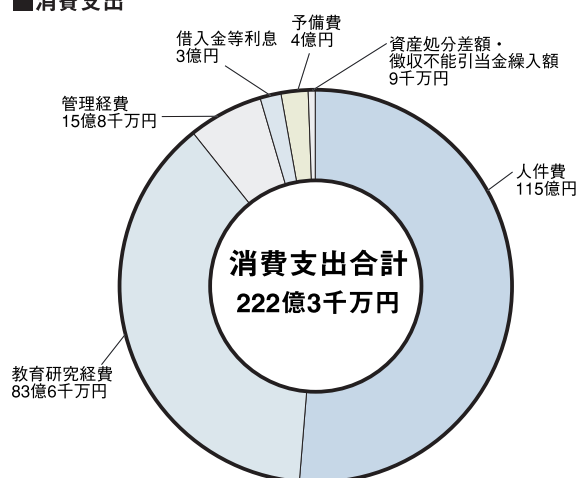


平成16年度 消費収支計算総括

■ 帰属収入



■ 消費支出



平成16年度 消費収支予算書総括表 (単位:百万円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	当年度予算額	科目	当年度予算額
学生納付金	17,562	人件費	11,498
手数料	1,307	教育研究経費	8,366
寄付金	144	管理経費	1,577
補助金	1,999	借入金等利息	300
資産運用収入	525	資産処分差額	86
事業収入	245	徴収不能引当金繰入額	4
雑収入	214	[予備費]	400
		消費支出の部合計	22,231
帰属収入合計	21,996	当年度消費支出超過額	2,075
基本金組入額合計	△1,840	前年度繰越消費収入超過額	5,927
消費収入の部合計	20,156	翌年度繰越消費収入超過額	3,852

■ 消費収支計算書 (財政状況の健全性と安定性を判断する計算書)

消費収支計算書は、大学の財政状況を示すものであり、当年度中の消費に充てることのできる収入と消費した支出の内容と収支の均衡状態を明らかにするものです。

消費収入は、帰属収入(負債とならない自己資金)から基本金組入額(施設設備等の購入に充てられる額や将来の施設拡充のために積み立てる額など)を差し引いたものであり、一方、消費支出は、人件費や減価償却費など当年度中に支出される本質的経費です。

教育体制の充実

■ 総合情報化の推進費

4億円

情報ネットワークの環境整備・管理・運営に関わる大学の総合情報化を推進します。今年度は生協サーバのウィルス対策やインターネット接続回線の拡充に係る経費などを予算化しました。

■ メディア教育費

8億2千1百万円

情報教育システムに係わるハード面・ソフト面の充実を図るための予算です。今年度はネットワークの高速化やマルチメディアを中心としたITによる教育の充実を図るため、情報教育システムを全学的に更新します。その他、システムの維持管理、自習室の開放、L.A.(ラーニングアシスタント)の配置や語学のCALL授業(コンピュータによる言語学習)等への教育補助員の配置など、情報教育への支援を行いません。

■ メディア機器充実費

9千9百万円

各学舎の教室において、DVDプレイヤーをはじめとするAV機器の設置を予定しています。視聴覚効果の高い教材とマルチメディア機器を使用した授業の展開を支援することにより、一層の教育効果の向上を図ります。

■ 教学改革推進費

2千1百万円

韓国の東國大学校との交換講義の実施(文学部)、ユビキタス環境における経済学教育実践の試み(経済学部)、MOT(Management of Technology)教育導入の検討(理工学部)などをはじめ、各学部(大学院)では、よりよい教学を模索し、教授法の研究や各種調査など様々な試みを行い、時代に応じた教学創造を目指しています。

■ 図書館費

1億5百万円

深草学舎図書館では平成16年度より授業期間の日曜日開館を行っています。これにより、一般学生のみならず社会人学生やREC会員などより多くの方がさらに利用できる環境を提供しています。瀬田学舎図書館においては、当面、定期試験期間前2週間および定期試験期間中の日曜日開館を試験的に行いません。

■ 特別研修講座の充実費

1億2千8百万円

就職ビルドアップ講座・公務員講座・法職課程・職業会計士課程・教職課程など課外学習プログラムを充実させ、学生のキャリアアップ・就職支援を図ります。

■ 実験実習の支援費

4億8百万円

実験や実習の充実を図ることにより具体的で実際的な授業を行い、より効果的な教育を展開します。短期学部実習においては介護現場における入浴設備として近年多くの施設で導入されている「チェアインバス」をはじめ様々な福祉機器を導入し、さらなる介護実習の充実を図ります。

■国際交流費

1億6千1百万円

海外の大学と交流協定を結び、研究交換、留学生の派遣・受入、海外研修制度の充実を図るなど、教育・研究の国際化を積極的に推進します。

■REC事業費

1億3千万円

生涯学習やリカレント教育、産官学連携やベンチャー育成など、社会の要請に応える事業に取り組みます。

■理工学部新学科創設費

2億5千9百万円

平成15年度に開設した理工学部情報メディア学科・環境ソリューション工学科の実験機器購入に係る経費です。年次計画に基づき、機器の充実を図っていきます。

■社会学部新学科創設費

1千2百万円

今年度開設した社会学部コミュニティマネジメント学科の備品等購入に係る経費です。年次計画に基づき、機器の充実を図っていきます。



研究支援

■学術フロンティア (AFC) 推進事業費

5千万円

本学では文部科学省の認定を受け、2つのAFCプロジェクトを推進しています。

ひとつは「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」において、本学が所蔵する国宝や重要文化財クラスの貴重資料を最先端の電子情報技術を用いてデジタル化し、保存・整理・分類した上でインターネットを通じて世界に公開できるようにシステムの構築を進めています。

もうひとつは、『21世紀・新「矯正・保護課程」プロジェクト』として、日本で初めての刑事政策分野に特化した研究所「矯正・保護研究センター」を開設し、法律学のみならず社会学、心理学、教育学、宗教学など、幅広い分野の研究者や実務家の協力を得て研究活動を展開しています。



■ハイテク・リサーチ・センター (HRC) 研究費

3千6百万円

文部省（現、文部科学省）のHRC整備対象事業として新素材、情報科学の2分野で最先端研究をすすめ、学問的・社会的成果を生み出して高い評価を受けています。

現在は、「環境にやさしい物質・材料の合成プロセスに関する研究開発」と、「高度知能情報処理システムの構築に関する研究開発」の2大プロジェクトを推進しています。

■留学費

4千9百万円

■個人研究費・個人研修費・個人研究複写料

1億9千2百万円

■研究補助費

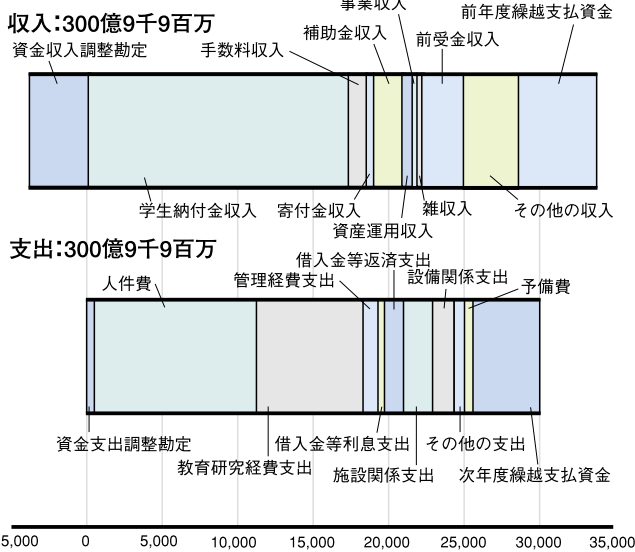
2千3百万円

大学の目的のひとつである研究に係わる教育職員の活動を支援し、研究環境の充実・向上を図っています。





平成16年度 資金収支予算書総括



平成16年度 資金収支予算書総括表 (単位:百万円)

収入の部		支出の部	
科目	当年度予算額	科目	当年度予算額
学生納付金収入	17,562	人件費支出	11,752
手数料収入	1,307	教育研究経費支出	6,242
寄付金収入	134	管理経費支出	1,524
補助金収入	1,999	借入金等利息支出	300
資産運用収入	525	借入金等返済支出	1,086
事業収入	245	施設関係支出	2,191
雑収入	214	設備関係支出	1,217
前受金収入	3,045	資産運用支出	5
その他の収入	3,349	その他の支出	395
資金収入調整勘定	△3,311	[予備費]	400
前年度繰越支払資金	5,030	資金支出調整勘定	△175
		次年度繰越支払資金	5,162
収入の部合計	30,099	支出の部合計	30,099

■資金収支計算書 (年度中すべての資金の収入と支出を示す計算書)

資金収支計算書は、当年度の資金の動きを追ったもので、当年度に対する収入と支出の他に、次年度以降の収入(前受金、未収入金)や支出(前払金、未払金)を含めたあらゆる収支が網羅されています。

■研究所費

1億7千2百万円

仏教文化研究所、社会科学研究所、国際社会文化研究所、科学技術共同研究センター、人間・科学・宗教総合研究センターの5研究所では、本学の資源を活かした、世界に発信できる研究の深化・高度化を図っています。

・ 学生生活への支援 ・

■キャリア開発費

1億2千9百万円

就職情報システムの更新を行ない、さらなる就職活動支援の充実を目指します。また、キャリア開発部(深草)施設の改修も行ないません。

■貸与奨学金

5百万円

■給付奨学金

1億2千9百万円

■留学生給付奨学金

1億7千万円

本学では、返済義務のない給付奨学金を中心とした奨学金制度の充実を図っています。受給資格は多種多様で、人物・学業を重視した奨学金や課外活動において優秀な成績をおさめた学生に対する奨学金、家計急変など経済事情を重視した奨学金などバラエティにとんだ奨学金制度を設けています。様々な奨学金の合計は3億1千6百万円になります。

■学生助育・福利厚生費

4億3千4百万円

クラブ活動、スクールバスの運行、新入生オリエンテーションや健康診断、災害補償など学生生活を色々な面からサポートしています。

・ キャンパス充実 ・

■施設の管理・維持費

15億6千7百万円

電気・水道・ガスなど光熱水費のほか、快適で安全なキャンパス維持のため建物修繕や、清掃・守衛業務、設備保守など施設の管理維持につとめています。

■施設設備の整備費

24億7千5百万円

キャリア開発部(深草)の改修を行ないません。「学生同士が憩える交流スペースの創造」をコンセプトに、学生・教員・スタッフが互いに交流する空間を提供し、大学生活の活性化を促すとともに、より積極的な学生へのキャリア開発支援を目指すものです。

その他、各学舎トイレへのウォシュレット設置や瀬田学舎クラブハウス(仮称)建設、大宮図書館改修、学友会館改修などに係る経費を予算化し、快適なキャンパスライフが過ごせるよう施設の充実を図っています。